

# たじみん昼話 61

## 好きな大学にラブレターを書こう 2

残念な例を示そう。

- ・子どものころから〇〇が好きで、〇〇を目指した。
- ・小学校の担任教師に憧れたのがきっかけで教師になろうと思った。
- ・ボランティアで現地の人にありがとうと言われ、〇〇を目指した。
- ・機械が好きで、技術者を目指した。

この4つに共通する残念な部分があるだろうか。それは具体性のない思い出レベルの体験を書いていることだ。これでは単なる感想文レベルと判定されるだろう。ここで重要なのは、前述したように①ではなく②だ。①からこの学問分野への関心にどう発展していったのか、そのストーリー(過程)を相手に伝えるように書くことが重要なのだ。例えば、「幼少期より本が好きで、この学部を目指しました」ではなく、「夏目漱石が好きで全て読了した。・・・」とすべきだ。そして「坊ちゃんの〇〇な文体が好きで、何度も読み返した。・・・」までは書きたい。可能なら、「英語やドイツ語版も読んだが、独特な文体が失われていて残念だ。私は・・・」のレベルまで書きたい。この理由書なら、自分の考察力や洞察力の深さを伝えることが可能で、場合によっては、入学後の研究姿勢まで大学側に想像させることができるだろう。したがって、ここまで書ければ他の受験生と確実に差別化が図れて高評価が得られるだろう。だから、①から②への過程は重要なのだ(①で終了は論外)。

そして、本題の③④では、「だからそれを実現するには、・・・この大学のここにしかないから」、・・・と学びたいことをアピールするのだ。大学のイメージに終始し具体的な学びがないものはだめだ。「講義やゼミが充実していてしっかり学べる。」「キャンパスが自然に囲まれた環境で、落ち着いて学べる。」「卒業生が頑張っていて就職が良い。」、これでは、漠然としていて具体性がなく、「うちの大学でなくても良いのでは?」と思われてしまう。

だから、本当に行きたい大学なら、何が学べるのかを徹底的に調べておかなければいけない。この大学ならではの「学び」が重要なのだ。「しっかり〇〇を学べ、〇〇が充実している」、としたいなら、「しっかりとは?」「充実しているとは?」を論述で明らかにするべきだ。「どのような講義か、興味を持っている分野をさらに深められる講義・学びがその大学にあるのか」、そういう視点で大学の〇〇概論、〇〇演習の説明を読み、「〇〇の講義を受け、〇〇を〇〇のレベルから学習し、XX先生の■■ゼミに入り、〇〇の考察的・比較・分散、の研究を進めることを考えている」と書くことで、大学には、「本当に自分のところをよく研究や調査をしている」と熱意が伝わり、高い評価が得られるだろう。

最後に忘れてならないポイントがある。それは、志望理由書を必ず第三者に添削してもらって何回も書き直すことだ。添削量が多いとモチベーション低下が激しい。しかし伝わる文章を完成させるにはこれが最善な方法だ。頑張ろう、多治高生。